

Ⅲ．刊行報告書抄録

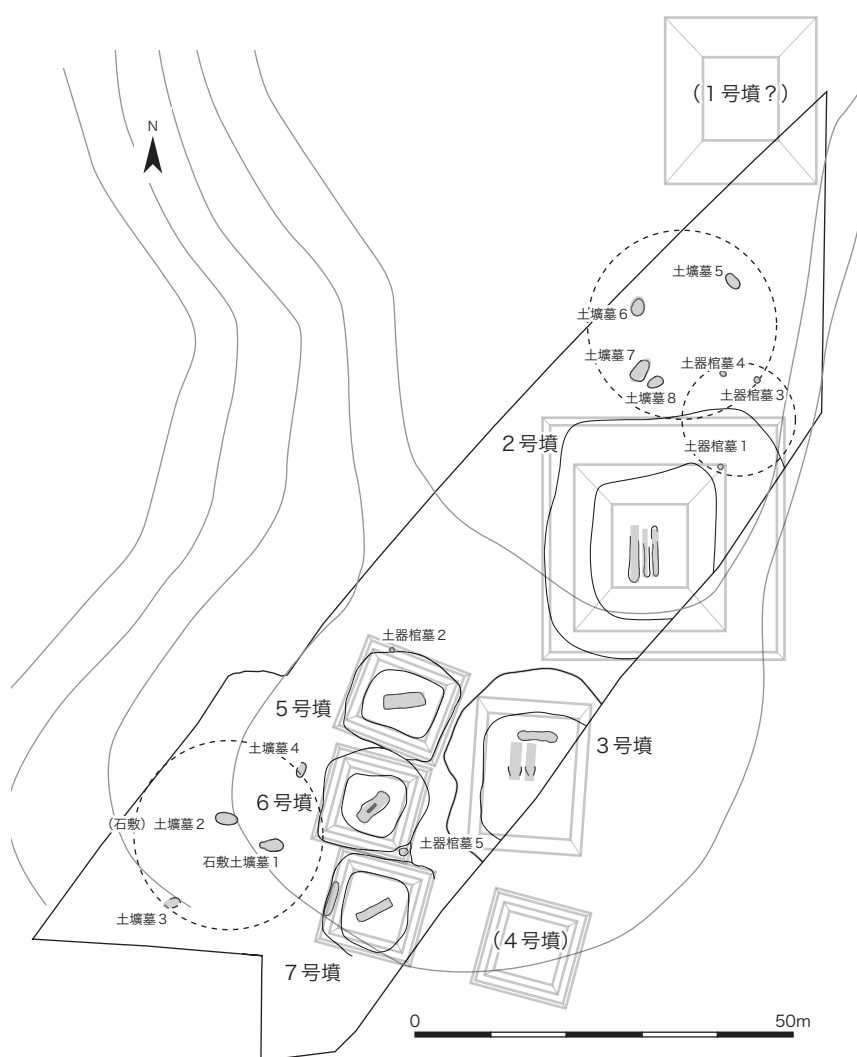
第231集 花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡

花の木古墳群は調査区内に再調査の2号墳を含めた5基の古墳(2・3・5・6・7号墳)が分布し、古墳5基の墳形(方墳)と規模が判明した。時期は古墳時代前期後半から中期前半である。7号墳は新旧の(再利用した)古墳を確認した。埋葬施設は木棺直葬で、鉄製品と玉類を副葬する。

花の木遺跡では、弥生時代中期後葉から後期の竪穴建物41棟を検出した。建物群は大型竪穴建物、排水溝が付属する竪穴建物を含む。

花の木北遺跡では、弥生時代前・中期の土器棺墓、弥生時代中期の竪穴建物、古墳時代中期の大型を含む竪穴建物、掘立柱建物と土坑群を検出した。古墳時代中期の大型竪穴建物からは編物石が出土した。

(早野浩二)



花の木古墳群主要遺構配置図

報告書抄録

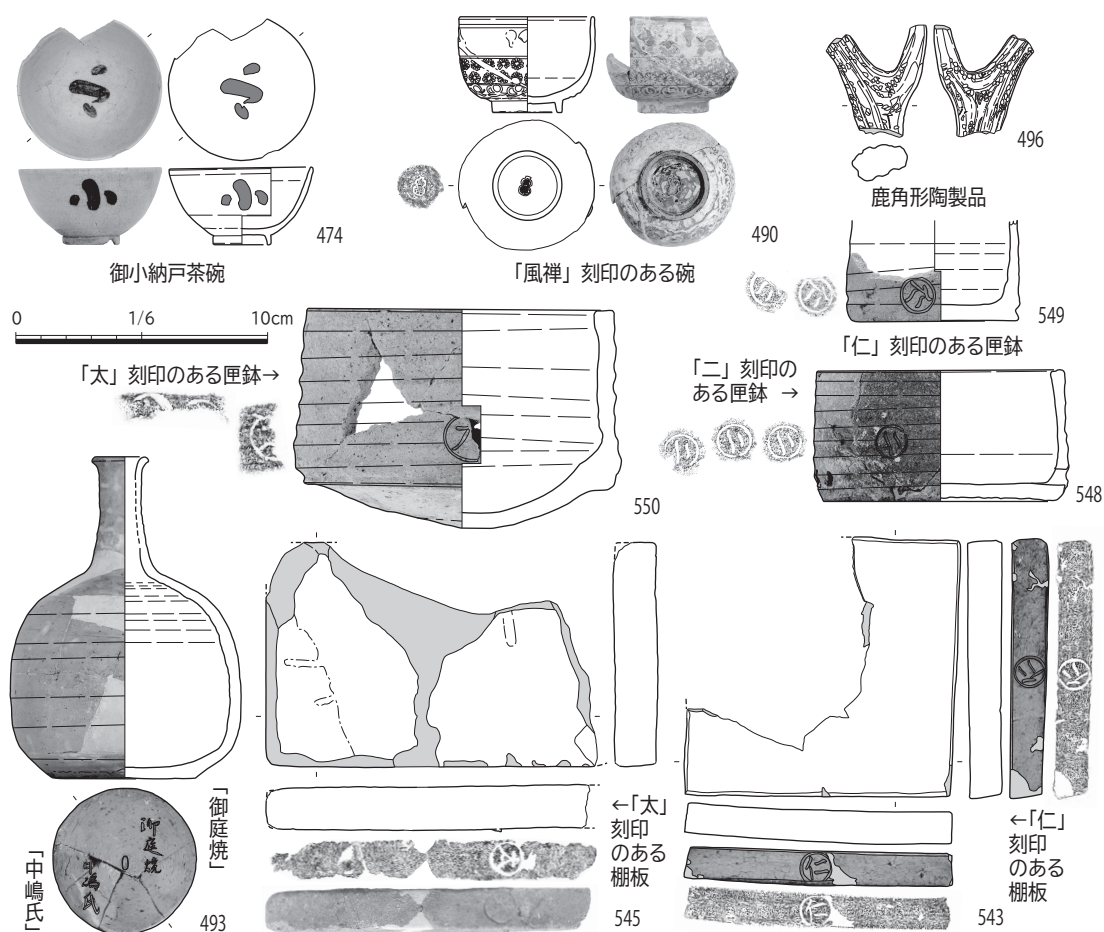
ふりがな	はなのきこふんぐん はなのきいせき はなのききたいせき							
書名	花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第231集							
編著者名	早野浩二・田中 良							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はなのきこふんぐん 花の木古墳群 はなのきいせき 花の木遺跡 はなのききたいせき 花の木北遺跡	あいちけん とよかわし 愛知県豊川市 おおぎちょうちない 大木町地内	232076	830195～ 830201 830428・ 830431	34度 51分 32秒・ 34秒	137度 24分 31秒・ 28秒	2020.05～ 2021.03 2021.05～ 2023.07	5,510 3,850	一般国道 151号 (一宮 バイパス)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
花の木古墳群	古墳	古墳時代	墳丘・周溝 埋葬施設 土器棺墓・土壇墓		土師器 鉄製品・玉類		方墳・木棺直葬 周辺埋葬施設 鉄製武器・農工具 墳丘出土玉類	
花の木遺跡	弥生	弥生時代	竪穴建物・土坑		弥生土器・石器		大型竪穴建物 排水溝が付属する 竪穴建物	
花の木北遺跡	弥生・ 古墳	弥生時代 古墳時代	土器棺墓・竪穴建物 竪穴建物・土坑 掘立柱建物		弥生土器・石器 土師器・石製品・ 鉄製品		前・中期の土器棺墓 大型竪穴建物 編物石	
文書 番号	発掘届出(2埋せ第7号・2020.4.8/3埋せ第7号・2021.4.6/4埋せ第71号・2022.9.8/5埋せ第12号・2023.4.13) 通知(2文芸第330号・2020.5.14/3文芸第209号・2021.4.15/4文芸第1565号・2022.10.6/5文芸第181-1号・2023.4.24) 終了届・保管証・発見届(2埋せ第164号・2021.3.19/3埋せ第101号・2021.9.30/4埋せ第147号・2023.3.2/5埋せ第51号・2023.7.11) 鑑定結果通知(2文芸第3879号・2023.3.31/3文芸第1632号・2021.10.11/4文芸第2472号・2023.3.13/5文芸第807号・2023.7.28)							
要約	<p>花の木古墳群は調査区内に再調査の2号墳を含めた5基の古墳(2・3・5・6・7号墳)が分布。古墳5基の墳形(方墳)と規模が判明。時期は古墳時代前期後半から中期前半。</p> <p>7号墳は新旧の(再利用した)古墳を確認。埋葬施設は木棺直葬で、豊富な鉄製品と玉類を副葬。鉄製品は武器(刀、蛇行剣を含む剣、鉄鏃)、農工具(斧、鎌、刀子)で構成される。</p> <p>7号墳墳丘斜面から玉類が出土。周辺埋葬施設として、土器棺墓5基、(石敷)土壇墓8基を検出。</p> <p>花の木遺跡は弥生時代中期後葉から後期の竪穴建物41棟を検出。竪穴建物群は大型竪穴建物、排水溝が付属する竪穴建物を含む。</p> <p>花の木北遺跡は弥生時代前・中期の土器棺墓、中期の竪穴建物3棟を検出。</p> <p>古墳時代中期の竪穴建物6棟、掘立柱建物7棟と土坑群を検出。竪穴建物群は大型竪穴建物を含む。大型竪穴建物から編物石が出土。</p>							

第232集 名城公園遺跡

名城公園遺跡は、名古屋市北区の名城公園北園を中心とする沖積低地に展開する、弥生時代後期～近代の集落・庭園遺跡である。現在IGアリーナが所在する地点を、27,000㎡にわたって令和4年1～6月に発掘調査を行った。遺跡の立地は熱田台地上の名古屋城本丸から北堀を挟んだ指呼の地で、名古屋城築城後に下御深井御庭として整備されたことが文献史料から知られている。

本発掘調査によって、名城公園遺跡には3つの時期で遺構・遺物のピークを見出すこととなった。すなわち①弥生時代後期～古墳時代前期の集落では、人面文土器やパレス・スタイル土器(主に壺)を用いた特殊な性格の一角があること、②古墳時代中期～同後期の集落では、特に6世紀代において、東山丘陵などで活発化した須恵器生産が他地域に流通する過程で選別を行い、不良品の廃棄を行っていたこと、③江戸時代に13万余坪(約430,000㎡)に及ぶ広大な回遊式庭園として整備された下御深井御庭が、19世紀前葉、尾張藩第10代藩主・徳川斉朝によって大規模な改変が行われ、また庭園内に築かれた御庭焼の窯(御深井窯)で瀬戸の陶工(加藤家)によって特別な窯業生産がなされていたことの3点である。

出土遺物で最多となるのは旧河道に廃棄された②にともなう須恵器であるが、意図的に器を歪ませたものが含まれるなど、須恵器の生産・流通に関わる興味深い資料がある。①も土器の量は多く、黥面をモチーフにした人面文土器は伊勢湾岸地域の特徴を示すものとして重要である。(永井邦仁)



江戸時代末期の廃棄土坑 00220SK 出土の下御深井御庭と御庭焼関連陶磁器類・窯道具

報告書抄録

ふりがな	めいじょうこうえんいせき							
書名	名城公園遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第232集							
編著者名	永井邦仁・永草康次・藤根 久							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
めいじょうこうえん 名城公園 いせき 遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 きたく めいじょう ちょうめ 北区名城1丁目 ほんち 2番地	23220	002027	35度 11分 24秒	136度 54分 09秒	2022.1.20~ 2022.6.30	27,000	愛知県 新体育館 整備・ 運営等 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名城公園遺跡	集落 庭園	弥生時代後期、 古墳時代、 奈良時代、 鎌倉時代、 室町時代、 江戸時代、 明治時代	掘立柱建物、 竪穴建物、溝、 井戸、旧河道、 土器集積、畑、 池、高射砲陣地	弥生土器、土師器、 須恵器、灰釉陶器、 山茶碗、緑釉陶器、 瀬戸・美濃窯産陶器、 染付磁器、木製品、 耳環、砥石、窯道具、 製塩土器、人面文土器		古墳時代初頭の人面文 土器、古墳時代中期の 須恵器選別場、古墳時 後期の集落が河道沿い に営まれる。江戸時代 は名古屋城下御深井御 庭となり、付近で御 庭焼が操業された。		
文書番号	発掘届出（埋セ3第122号・2021.12.24） 通知（3文芸第2149号・2022.1.11） 終了届・保管証・発見届（埋セ4第49号・2022.7.7） 終了届受理（4文芸第1087号・2022.7.15） 鑑定結果通知（4教文137号・2022.7.21）							
要約	<p>本遺跡は、熱田台地北辺から約10m下った沖積低地上に展開する。台地崖下を西流する矢田川水系に属する河道によって形成された微高地上に弥生時代後期以降、断続的に集落が営まれる。特に古墳時代初頭には、人面文土器や加飾壺（パレス・スタイル）を多く含む土器廃棄があり、集落の祭祀に関わる場に近いことをうかがわせる。古墳時代中期になると、東山丘陵などで開始された須恵器生産の流通に関わる拠点として、二次選別を行って廃棄した多量の須恵器が旧河道跡から出土する。その拠点は引き続き集落として奈良時代初頭まで継続し、集落には有力者層の大型建物も所在し、河道から分岐する大溝も開削される。集落廃絶後は、鎌倉時代にかけて畑の耕作がなされていたが、江戸時代に名古屋城築城に合わせて整備された尾張藩の庭園（下御深井御庭）が13万余坪の広大な面積を占有し、瀬戸の陶工による御庭焼も営まれた。近代以降は練兵場で高射砲陣地が設置された。</p>							

第233集 一色青海遺跡Ⅳ

一色青海遺跡は濃尾平野の南西部に位置する弥生時代中期後葉の大集落であり、本報告は日光川上流浄化センター建設に伴う最後の報告書となる。『一色青海遺跡Ⅲ』で確認した遺跡の北端を北西から南東に流れる河道、この河道の埋没後に掘削された大溝、竪穴建物跡22棟、竪穴建物廃絶後に造られた方形周溝墓2基などを確認した。なかでも平成30年度調査区で見つかった302SIは長軸8.55m、単軸7.92mを測る大型の竪穴建物跡で、焼失した炭化材や土器が多数残されており、その埋没状況から住居廃絶後に燃やされた可能性が高いことが注目される。

(樋上 昇)



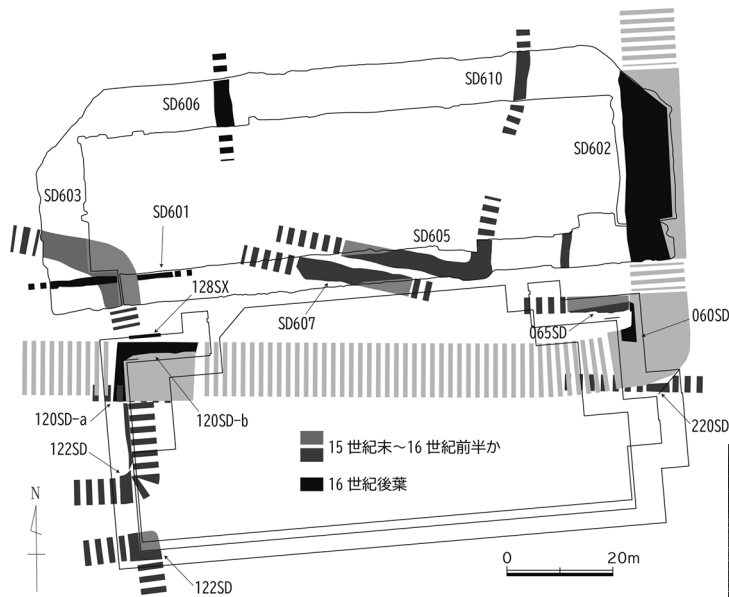
報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき 4							
書名	一色青海遺跡IV							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第 233 集							
編著者名	鈴木 恵介・永井 宏幸・樋上 昇・柳原 麻子・伊藤 茂・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹・Zaur Lomtadidze・小林 克也							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	愛知県 稲沢市一色青海町、 ぎちようちよう いぼりのぐちちよう 儀長町、井堀野口町、 へいわちようすがたに 平和町須ヶ谷	232203	270013	35 度 14 分 9 秒	136 度 45 分 20 秒	2018.6~11 2019.5~10 2021.5~10 2023.6~9	4,580	日光川 上流流 域下水 道浄化 センタ ー建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴建物跡 22 棟 方形周溝墓 2 基、 溝 13 条、土坑		弥生土器、石器、木器		焼失した大型竪穴 建物跡、木器に残る 鉄製工具の使用痕跡	
	集落跡	鎌倉時代 ～ 室町時代	溝 2 条					
文書番号	発掘届出 (30 埋七第 7 号・2018.4.13) (31 埋七第 4 号・2019.4.1) (3 埋七第 1-1 号・2021.4.1) (5 埋七第 11 号・2023.4.6) 発掘届出 (30 教生第 184 号・2018.4.16) (31 教生第 273 号・2019.4.19) (3 文芸第 128 号・2021.4.9) (5 文芸第 134 号・2023.4.18) 終了届・保管証・発見届 (30 埋七第 90 号・2018.11.19) (31 埋七第 91 号・2019.11.1) (3 埋七第 104 号・2021.10.19) (5 埋七第 73 号・2023.9.14) 鑑定結果通知 (30 教生第 3184 号・2018.12.25) (31 教生第 4167 号・2020.3.27) (3 文芸第 1736 号・2021.10.27) (5 文芸第 1077 号・2023.9.26)							
要約	三宅川の右岸自然堤防上に形成された弥生時代中期後葉の大規模集落跡で、平成 3 年度より 30 年以上に渡って発掘調査が行われてきた。これまでに 267 棟の竪穴建物跡、28 棟の掘立柱建物跡などが確認されてきた。今回の平成 30 年度から令和 5 年度までの調査では、さらに竪穴建物跡を 22 棟確認し、竪穴建物跡の総数は 289 棟となった。また、平成 21 年度の調査で見つかった河道の続きを確認し、多量の土器・石器・木器が出土した。							

第235集 名古屋城三の丸遺跡Ⅸ

調査は名古屋第4地方合同庁舎等建設に伴うもので、旧建物基礎を残した周囲が本書報告分の調査範囲(23A区)である。江戸時代の名古屋城三之丸においては本町門に近く、上級藩士の中でも家老職を代々勤めた渡辺半蔵家など重臣が配置されていた武家屋敷地であった。

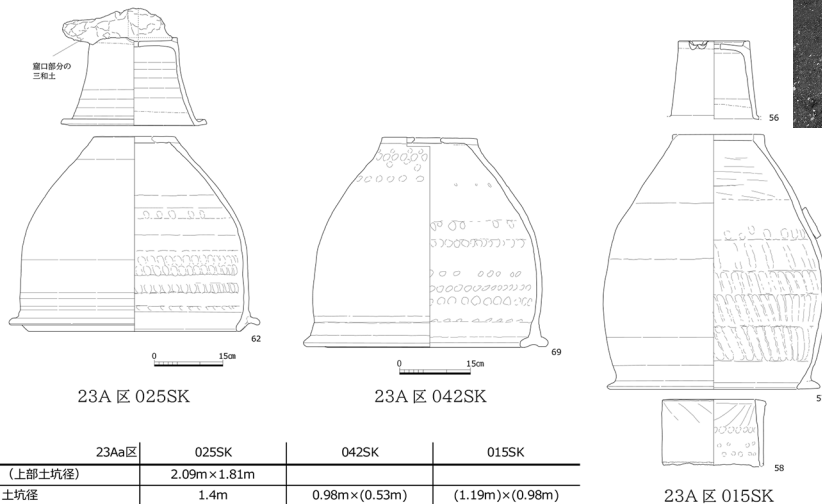
調査では、池の痕跡や江戸時代後期の水琴窟を含む埋甕の排水施設など庭園関連の遺構が検出され、遺物には多数の植木鉢が含まれるなど、これまでの調査ではみられなかった屋敷奥の趣味的な空間が明らかとなった。重臣の邸宅ならではの階層性を示す遺構群と位置付けられる。また、下層では戦国期の屋敷地区画溝の上層を確認し、東西方向に100m以上延びる幅11mほどの大溝を確認した。戦国期那古野城に関連する情報として注目される。(武部真木)



23A区と県三の丸庁舎地点の戦国期溝(掘)の配置



埋甕遺構(025SK)上部



23Aa区	025SK	042SK	015SK
(上部土坑径)	2.09m×1.81m		
土坑径	1.4m	0.98m×(0.53m)	(1.19m)×(0.98m)
土坑深さ	1.06m	0.85m	1.18m
土坑底面標高	11.242m	11.649m	11.195m
土坑底面から甕(口縁部)までの距離	21cm	15cm	40cm
甕 口径	44.7cm	40.8cm	45~47cm
甕 最大径	55.1cm	52.3cm	
甕 底径	18.1cm	20.0cm	19.4cm
甕 器高	42.8cm	44.3cm	53.8cm

名古屋城三の丸遺跡の埋甕遺構の事例

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき 9							
書名	名古屋城三の丸遺跡 IX							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第235集							
編著者名	武部真木(編)・鈴木正貴							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごやじょう 名古屋城 さんのまるいせき 三の丸遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 なかく さんのまる 中区三の丸2丁目	23106	007027	35度 10分 45秒	136度 54分 4秒	2023.05.17~ 2023.08.31	1,119	名古屋第4 地方合同庁舎 整備等事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
名古屋城 三の丸遺跡	集落 城郭	奈良時代 戦国時代 ~ 江戸時代	溝(堀)、井戸 溝、土坑、井戸、 庭園遺構(池)		須恵器 土師器(皿・鍋・人形)、 国内産陶磁器、 輸入陶磁器、 金属製品、石製品等		尾張藩武家屋敷の 庭園遺構(池)及び 水琴窟	
文書番号	発掘届出(5埋セ第3号 2023.4.5) 通知(5文芸第94-1号 2023.4.11) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第149号 2024.3.21) 鑑定結果通知(6文芸第130号 2024.4.15)							
要約	調査地点は、名古屋城三の丸尾張藩武家屋敷のうちでも本町御門に最も近い重臣屋敷の一角にあたり、広大な敷地を継続して保有した渡邊半蔵家とその東側屋敷地が含まれる。屋敷奥となる範囲には池の痕跡や水琴窟を含む多数の埋蔵遺構が確認され、廃棄土坑からは多数の植木鉢も出土した。広い屋敷地ならではの空間の利用方法と、17世紀後半以降に活発に流行した園芸趣味の武家地での様相が窺われる資料である。							

第236集 名古屋城三の丸遺跡X

調査は名古屋第4地方合同庁舎等建設に伴うもので、旧建物基礎を撤去した範囲が本書の調査範囲(23B区)である。江戸時代の名古屋城三の丸においては本町門に近く、上級藩士の中でも家老職を代々勤めた渡辺半蔵家など重臣が配置されていた武家屋敷地であった。

現地表から3.5m程下の面から開始となった調査では、井戸約14基と戦国期の巨大な溝の下部のみが確認された。上層で幅約11mとした大溝は、地表面から約4.5mの深さがあり、土塁を伴っていたと考えられる。これまでの調査事例等の検討からは東西方向に約350mほどの規模が推定され、戦国期那古野城の中心域に対しては、南辺を画する遺構の発見となった。(武部真木)



大溝(315SD)の埋土断面 東から撮影



名古屋城三の丸遺跡の戦国期溝(掘)の分布

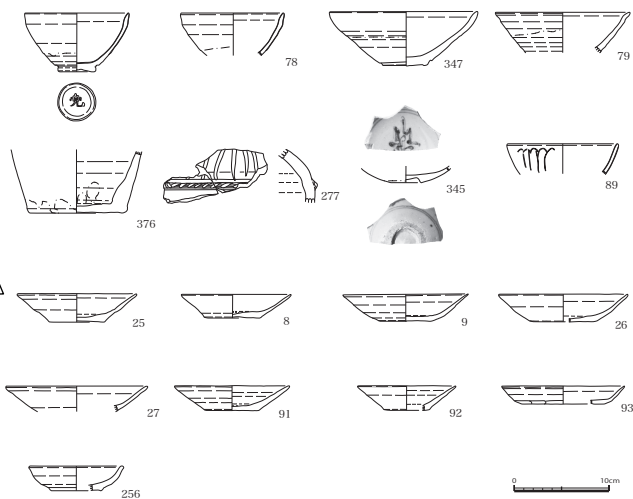
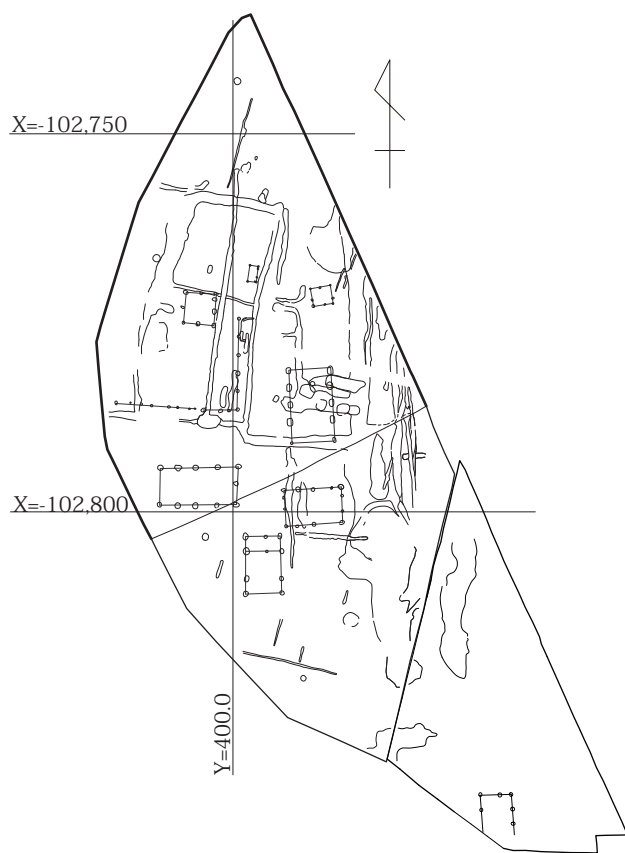
報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき 10							
書名	名古屋城三の丸遺跡 X							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第236集							
編著者名	武部真木							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごやじょう 名古屋城 さんのまるいせき 三の丸遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 なかく さんのまる 中区三の丸2丁目	23106	007027	35度 10分 45秒	136度 54分 4秒	2024.01.09.~ 2024.03.22.	3,344	名古屋第4 地方合同庁舎 整備等事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名古屋城 三の丸遺跡	城郭	戦国時代 ~ 江戸時代	溝(堀)、井戸 溝、土坑、井戸	国内産陶磁器、 金属製品、石製品等 土師器(皿・鍋・人形)、 国内産陶磁器、 輸入陶磁器、 金属製品、石製品等		那古野城の南辺を 画する大溝を確認		
文書番号	発掘届出(5埋セ第3号 2023.4.5) 通知(5文芸第94-1号 2023.4.11) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第149号 2024.3.21) 鑑定結果通知(6文芸第130号 2024.4.15)							
要約	調査地点は、名古屋城三の丸尾張藩武家屋敷のうちでも本町御門に最も近い重臣屋敷の一角にあたり、広大な敷地を継続して保有した渡邊半蔵家とその東側屋敷地のそれぞれ一部が含まれる。建物基礎撤去後の旧地表面より約3m 下からの調査において、江戸時代と戦国期の井戸計14基のほか、幅約12m 規模の大溝の底面を確認した。大溝は深さ約4m、土塁を伴い東西方向に103m 以上延びることが判明し、戦国期那古野城の南辺を画するいわゆる「惣構」と想定される重要遺構の発見となった。							

第237集 牛寺遺跡Ⅱ

牛寺遺跡は愛知県豊田市御立町に所在する。遺跡は、矢作川の鵜の首狭窄部から上流に約900m地点で、左岸の北西から南東に半島状に伸びる段丘面(籠川面)に位置する。遺跡の西側は現在の矢作川流路と接しており、一部がその堤防内側に取り込まれた形となっている。

発掘調査は、平成29(2017)年度・平成30(2018)年度・令和3(2021)年度に実施した。検出された遺構は、縄文時代から近世と様々な時期に属するが、主体となるのは中世以降の遺構群で、15世紀には溝により形成された区画中に掘立柱建物・井戸・土坑などが展開する様子が確認できる。なお、これらの遺構が廃絶する16世紀以降には、7基の火葬施設が検出されており、葬送の空間として利用が想定できる。(池本正明)



報告書抄録

ふりがな	ごでらいせき2							
書名	牛寺遺跡 II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第237集							
編著者名	池本正明、荒木徳人、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごでらいせき 牛寺遺跡	あいちけん とよたし 愛知県豊田市 みたちちょう 御立町	232114	630359	35度 4分 23秒	137度 10分 33秒	2017.04~06 2018.12~02 2021.10~02	200 800 2,800	矢作川 河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
牛寺遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 中・近世	土坑 竪穴建物、土坑 掘立柱建物、土坑、 溝、井戸、 火葬施設関連遺構	縄文土器、石器 弥生土器 土師器、 瀬戸美濃窯産陶器		溝による区画		
文書番号	発掘届出 (29埋セ7号 2017.04.10、 30埋セ第86号 2018.11.08、 3埋セ第76号 2021.08.05) 通知 (29教生第280号 2017.04.19、30教生第2733号 2018.11.20、3文芸第1277号 2021.08.18) 終了届・保管証・発見届 (29埋セ27号 2017.06.13、 30埋セ第131号 2018.03.08、 3埋セ第147号 2022.03.07) 鑑定結果通知 (29豊教第1210号 2017.07.03、 3豊文財第4021号 2022.03.18)							
要約	本遺跡は、矢作川東岸の半島状に伸びる段丘面に立地している。調査では主に縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。中心となる中世では屋敷地が展開していることが判明した。屋敷地の廃絶後は、火葬施設が確認されるなど、葬送に関わる場へと土地利用が変容している事も確認できた。当該地域の中世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。							

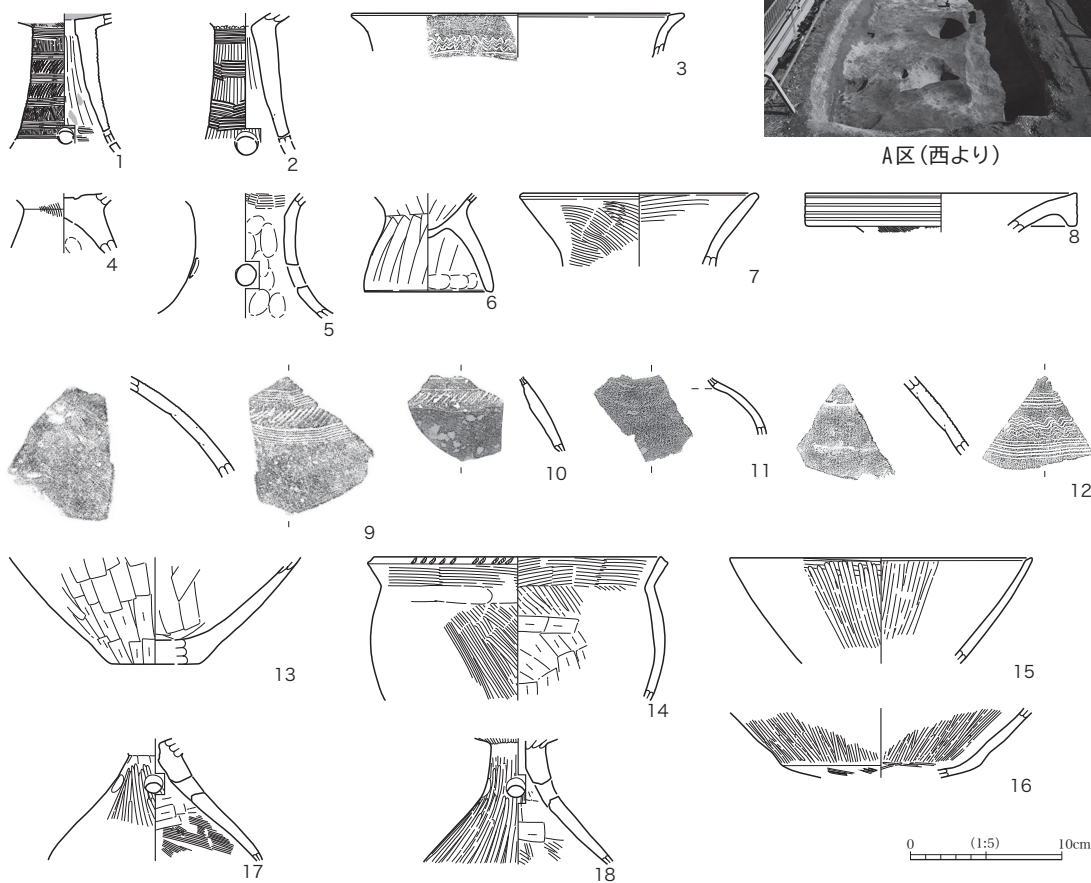
第238集 蕎麦田遺跡

本遺跡では調査範囲をAからGの7調査区に分割して行った。調査によって確認された遺構遺物は主に古墳時代、平安時代、近世の3時期に属する。古墳時代前半の遺構としてA区で溝3条、E～G区で溝7条を検出した。いずれも南北方向の溝である。古墳時代後半は、D・E区で南北方向の溝が4条が検出された。平安時代の遺構としてはE区で南北方向の溝1条が検出された。近世の遺構は、G区で南北方向の溝1条が検出された。その他時期不明の南北方向の溝が2条検出された。遺物としては古墳時代は土師器および須恵器、平安時代は灰釉陶器と須恵器が出土した。近世の溝からは瀬戸窯産陶器類などが出土した。

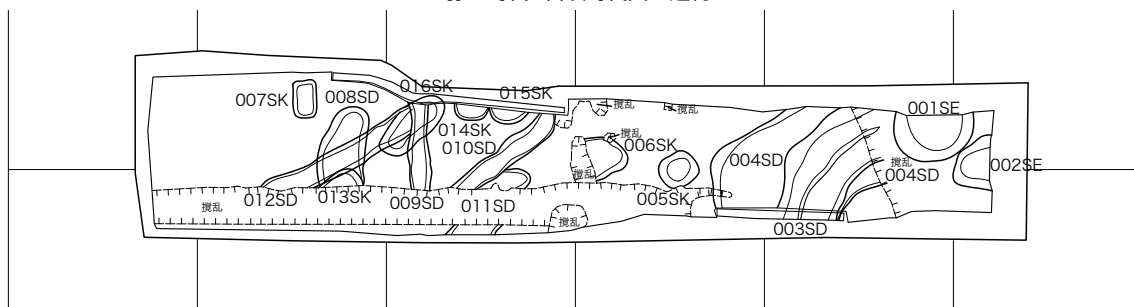
調査の結果、古墳時代では建物の遺構は検出されなかったが、中央のD区の旧河道を中心に東側と西側の微高地上に集落が展開すると推定される。 (酒井俊彦)



A区(西より)



弥生時代・古墳時代出土遺物



A区遺構図(1/200)

報告書抄録

ふりがな	そばたいせき							
書名	蕎麦田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そばたいせき 蕎麦田遺跡	あいちけんいわくらし 愛知県岩倉市 だいちしよう そばた 大地町 蕎麦田	232289	110056	35度 16分 31秒	136度 51分 45秒	2023.10.01~ 2024.01.31	1,098	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
蕎麦田遺跡	集落	古墳時代 古代	溝・土坑	土師器 須恵器 灰釉陶器				
文書番号	発掘届出(5埋セ第72号 2023.9.6) 通知(5文芸第1053号 2023.9.25) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第122号 2024.2.8) 鑑定結果通知(5文芸第1943-1号 2024.2.22)							
要約	蕎麦田遺跡は愛知県の尾張平野に所在する遺跡であり、五条川右岸に立地する。本遺跡は県道春日井一宮線工事に伴う試掘調査で確認された。周辺には大地遺跡、西北出遺跡などよく知られた遺跡が存在する。今回の調査では古墳時代から近世までの遺構・遺物が確認された。古墳時代の遺構・遺物としては溝と土坑が確認され、古墳時代土師器が出土した。古代の遺構・遺物は溝とこれに伴う灰釉陶器、須恵器などが確認された。							

